プロジェクトリーダー：名古屋産業大学　環境情報ビジネス学部　宇田紀之教授

事業実績調書

（1）プロジェクト名	CG/VR 技術を用いた景観まちづくりの支援 ―　せとまちブランディングの施策支援―

（2）プロジェクトの成果（※そのような成果が得られたかについて具体的に記載）

名古屋産業大学・宇田研究室は、2014 年度 より、大学コンソーシアムせとの施策協働プロジェクトに関わり、瀬 戸市役所都市計画課と協働して、瀬戸市街地を中心とする都市景観評 価実験の実施、及び、景観形成施策に関する研究を行ってきた。2016年度は、「新しい文化創造プロジェクト」に関わり、愛知工業大学水野教授、金城学院大学後藤昌人准教授・瀬戸市役所岡田克也係長を基礎メンバーとした大学間連携体制を組み、行政と大学との連携の可能性について協議した。その結果、瀬戸市が提唱する「せとまちブランディング」推進活動をITCで支援する方向が確認された。なお、本プロジェクトには、ICTを利用した社会システム開発に経験ある中京大学宮崎教授、元名古屋大学横井教授にも参加していただき、有益なコメントをいただいた。10月に、「せとまち歩き」のイベントを開催し、宇田が、デジタルミュージアム2.0構想を紹介した。文化財振興財団はじめ行政からから約10名の参加があり、愛知工業大学、金城学院大学、名古屋産業大学から学生・教員18名の参加があった。プロジェクト活動は、芸術情報学会誌（2017年1月号）でも、紹介された。

（3）プロジェクト実施内容（※事業の実施方法、時期、場所、回数、市民への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載）

2016 年　5 月16日　第1回プロジェクト会議（ パルティせと第１会議室　9名参加）
参加メンバー・行政担当者紹介（名産大　宇田）
せとまちブランディングと日本文化遺産登録について（都市計画課・岡田係長）
2016 年　7 月6日第2回 プロジェクト会議（名古屋産業大学　8名参加）
文化財保存のVRシステムの紹介（名産大　宇田）
日本文化遺産登録の現況についての説明（都市計画課・岡田係長）
2016 年　7 月 16日　瀬戸中心地（せとまち）の旧山繁商店視察とヒアリング調査（4名参加）
2016 年　8 月 26日　瀬戸市博物館視察とパノラマ写真撮影　（名産大　宇田ゼミナール5名）
2016 年　10 月4日第3回 プロジェクト会議（パルティせとマルティメディア室　24名参加）
せとまち歩き　瀬戸市学芸員によるせとまち散策せと文化創造フォーラム

（4）プロジェクトの今後の課題と展望

瀬戸市は、1300年に及ぶ陶磁器生産の歴史と伝統を現在に受けつぐ「せとものの まち」である。
市民の陶磁器文化に対する関心は高く、市内にはいくつも陶磁器博物館や陶工養成機関がある。プロジェクトの目的は、CG/VR技術を利用した瀬戸市のまちづくり支援、＜新しい文化創造支援＞である。
プロジェクト代表者宇田が、京都祇園祭のデジタルミュージアム設計の仕事に関わった経験があることから、3次元CADモデルや、3次元レーザー計測データ（点群データ）、360度パノラマ写真などの新メディアを利用したデジタルミュージアム構想が示された。
瀬戸市は、まるっとミュージアム構想を継承して、「せとまちブランディング」構想を提唱する。具体的には、瀬戸市中心市街の陶器商のまちなみを保存や、日本遺産登録が目標をして提案されている。我々がもつ点群計測技術、パノラマ撮影技術は、旧家屋や陶器のデジタル保存に対応するものであるので、来年度以降は、文化施設関係者とも連携して、積極的にまちづくり支援を続けてゆきたい。